

2010年日本切手発行状況

2010年は日本の切手発行が一つの壁とも思われていたものを越えた年になった。それは年間発行切手の種類数が年間日数を上回ったことである。毎日発行しても発行しきれなくなってしまう。郵便局の窓口周囲は切手展より多くの美しい切手が飾りたてられてる一方で、求められる切手を局員が分厚いシートホルダーから探すのに苦労されているのが気の毒である。これではお小遣いを貯めて切手を集めだす子供達を期待できないし、収集を続ける年金老人にも見放されてしまうのではないだろうか。

発行件数と種類

発行を整理してみると、43件 367種類の切手が発行された。日本切手カタログの分類でみると表1のように、件数は特殊、ふるさと切手で毎月約4件 20種類発行される勢いである。

種類	件数	種類
ふるさと切手	20	162
特殊切手	22	200
年賀切手	1	4
総計	43	367

これを更に、発行内容別に整理すると表2のようになり、シリーズ切手が特殊切手において件数、種類

表2 内容別にみた切手発行件数と種類 網点部分シリーズ切手

切手種類	発行内容・目的	件数	種類
特殊切手	グリーティングシリーズ	3	36
特殊切手	アニメシリーズ	3	30
特殊切手	ふみの日・手紙を書こう切手	2	23
特殊切手	2020 FIFA World Cup	1	22
特殊切手	APEC	1	10
特殊切手	サンマリノ共和国	1	10
特殊切手	航空100年記念	1	10
特殊切手	生物多様性条約第10回締約国会議記念	1	10
特殊切手	日本・ポルトガル修好150周年	1	10
特殊切手	平城遷都1300年記念	1	10
特殊切手	干支文字切手	1	9
特殊切手	日本学士院賞100年記念	1	5
特殊切手	2010年切手趣味週間	1	4
特殊切手	第3回UNI世界大会	1	4
特殊切手	2010年国際文通週間	1	3
特殊切手	議会開設120年記念	1	2
特殊切手	日米安全保障条約改定50周年	1	2
ふるさと	旅の風景シリーズ	4	40
ふるさと	ふるさとの花	3	30
ふるさと	地方自治法施行60周年記念シリーズ	6	30
ふるさと	ふるさと心の風景	2	20
ふるさと	ふるさとの祭	2	17
ふるさと	江戸名所と粋の浮世絵	1	10
ふるさと	国土緑化	1	10
ふるさと	第65回国民体育大会	1	5
年賀切手	平成23年用年賀郵便切手	1	4

とも約45%、ふるさと切手においては85%を超えるものである。消えた北方領土、そして北海道まで消えた「心の風景シリーズ」再発行の件が無ければもっと多くなっていただことであろう(図1)。このようなシリーズ切手の発行に占める割合をどう評価していいものか悩むところである。

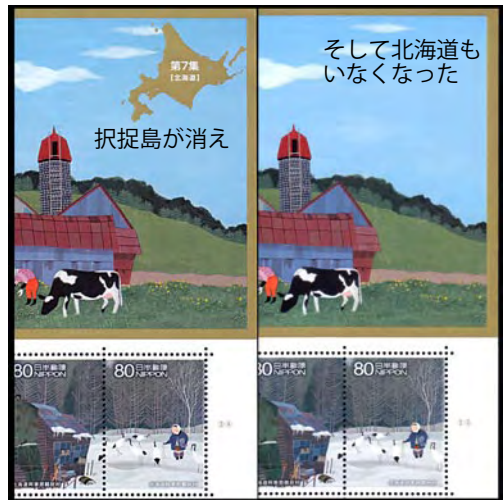


図1 ふるさと心の風景第7集 北方領土を描かず再発行。そして北海道が消えた

発行面での留意点

今年発行の中で従来と異なり注意しておく点はいくつか散見された。一つは種類数の変化である。国民体育大会切手で従来4種類であったのが5種類、ふるさと祭シリーズで10種でなく7種で発行されたことである。蛇足であるが国体切手5枚2列構成、シートで縦1列を購入して5種類そろったと思うと、とんでもないこと3種しかないのである。どうしてこのような購入者泣かせ、局員の手数を増やす配慮してくれるのか理解に苦しむ。二つ目は国際文通週間切手がまた描画内容を変更したことである。これでこのシリーズ10回目の変更になったと考える。そしてグリーティング切手に初めて90円切手が発行されたことである。

更に、デザインのとらえ方にもよるかと思うが、これだけ多くの切手を発行するためであろうか、1950年代の切手のように切手のためにデ

デザインをしたと強く感じさせる切手が少なく、文化財、風景写真の利用が多くなっているように感じる。また、今後に向けて留意しなければと感じるのが、横文字表示の問題である。切手自体とシートへの表示も含めて横文字の表示目的が統一されて無いように感じてならない。安保50年には横文字が日本語より大きく表示されているのに、生物多様性条約切手にはシートにすら表示が無く、ふるさと旅の風景切手のシートには横文字がすべて表示されているという、横文字表示目的がわかりにくい。昨年発行の300円普通切手のようにデザインとして横文字を使用することが無いように願うものである。



図2 横文字は何のために使われているか

表3 切手の種類と印刷方式

種類	オフセット	オフセット・エンボス加工	グラビア	グラビア・凸版	総計
ふるさと切手	92		70		162
特殊切手	165	10	26		201
年賀切手			2	2	4
総計	257	10	98	2	367

印刷と印刷機関（銘版）

今年も凹版切手は発行されずオフセット、グラビア印刷の2種だけで全切手の主要部分が印刷、発行されている。これを切手種類別に見ると表3のようになり、70%がオフセット印刷で、特殊切手に限れば87%がオフセット

表4 印刷方式と印刷機関（銘版）

銘版	オフセット	オフセット・エンボス加工	グラビア	グラビア・凸版	総計
Cartor Security Printing	186	10			196
国立印刷局	10		98	2	110
凸版印刷	61				61
総計	257	10	98	2	367

印刷であった。次に、印刷機関で整理すると表4のようにオフセットを印刷するフランス Cartor Security Printing 社が日本切手全体の53%の切手を印刷している。ふるさと切手の地方自治法施行60周年記念シリーズの記念硬貨のデザインが他のものであれば国立印刷局でなくなり、他の機関のオフセットになった可能性もあろう。

切手額面と購入必要金額

額面では海外へのクリスマスカード用を想定してか冬のグリーティング切手に90円切手が5種発行されたことが注意される。50円と80円の比率は2:8、ふるさと切手に限定すると3:7となっている。

発行された切手を1枚ずつ購入すると27440円（シール切手はシート）を要する。もし、祭シリーズ、切手趣味、世界サッカー、国体、UNI世界大会を重複を承知でシートで購入すると、さらに1600円が必要となり年間必要金額は昨年と同じく約3万円という額である。これでは子供達に切手趣味を働きかけることはできない。

発行枚数

発行枚数はシート枚数で発表されているが、個々の切手ごとの発行枚数で整理した。世界サッカー大会 JULES RIMET CUP 切手の場合は他の切手の3倍として計算した。

表5 切手の種類別発行枚数

種類	万枚			
	最小発行枚数	最大発行枚数	平均発行枚数	合計発行枚数
ふるさと切手	60	200	144	23300
特殊切手	50	600	177	35500
年賀	380	2000	1190	2380
総計	50	2000	168	61180



上 最大600万枚 他に4種
右 最小50万枚 他に4種



図3 最大、最小発行枚数切手

ふるさと切手のふるさと

162種発行されたふるさと切手のふるさとを整理すると50、80円切手の両方が16の県で2種~12種発行され、15都道県で50、80円いずれか1種の切手が発行されていたが、16府県ではふるさと切手は発行され

てない。中でも埼玉県、福岡県の2県のふるさと切手は昨年に続いて発行がなく、今年もふるさとに偏りのあるふるさと切手の発行であった。

10年をふり返って

さて、このような今年の切手発行の状況を踏まえて、過去10年間の日本切手の発行状況を整理してみたい。この10年間には留意すべきことがいくつか存在する。郵便事業の公社化、民営会社移行と、それにとまなうふるさと切手発行形態の変更等である。この点をふくめ、発行件数、種類数を整理したのが表6である。件数、種類とも肥大化傾向は明らかである。ここで注意されるのが発行1件当りの種類数である。公社化、民営化を期に数値が目立って高



図4 懐かしい1件1種類発行最後の特殊切手とふるさと切手

表6 切手の発行件数と種類数の推移

年	件数	種類	1件平均	件数				種類				備考
				ふるさと	特殊	年賀	普通	ふるさと	特殊	年賀	普通	
2001年	62	195	3.1	38	23	1		72	119	4		
2002年	49	146	3.0	25	23	1		50	92	4		
2003年	36	130	3.6	19	16	1		34	92	4		公社化
2004年	36	161	4.5	18	17	1		61	96	4		
2005年	33	156	4.7	16	16	1		72	80	4		
2006年	30	195	6.5	15	14	1		79	112	4		
2007年	36	293	8.1	17	16	1	2	117	170	4	2	民営化
2008年	36	317	8.8	14	20	2		119	192	*6		ふるさと変更
2009年	41	351	8.6	19	20	1	1	152	194	4	1	
2010年	43	367	8.5	20	22	1		162	201	4		

表8 印刷方式割合の推移(種類数割合) *小型シートの切手をデザイン、サイズから別の切手とした。

年	オフセット	グラビア	グラビア凹版	グラビア凸版	グラビアエンボス	オフセットエンボス	平版エンボス	平版	平版ホットS	平版凹版
2001年	19%	79%	1%	1%						
2002年	10%	86%	2%	1%						
2003年	14%	83%	2%	2%						
2004年	12%	79%		1%	6%					2%
2005年	8%	62%		1%	6%			15%	6%	
2006年	9%	66%		1%	5%			11%	8%	
2007年	16%	48%		1%			3%	28%	3%	
2008年	7%	75%		1%		3%		13%		
2009年	65%	30%		1%		3%				
2010年	70%	27%		1%		3%				

くなってきていることである。ここ数年は平均1件8種類ずつ発行されているようである。なつかしき1件1種類の発行は特殊切手で2005年の中部国際空港開港記念切手、ふるさと切手で2007年62回国体切手を最後になっている(図5)。また、表から見落とされがちなのが、発行方法を印象づけられていたふるさと切手、発行方法の変化か、少なくなった思いであったが、表7 50,80円切手の発行割合 数値は民営化後、

年	50円	80円
2001年	19%	75%
2002年	26%	71%
2003年	24%	71%
2004年	28%	68%
2005年	41%	56%
2006年	19%	78%
2007年	10%	88%
2008年	15%	84%
2009年	15%	80%
2010年	19%	78%

倍になっている。

このような発行状況は切手が実際に使用されることを考慮されたものなのか、切手の額面別の発行種類数から検討してみた。整理したのが表7である(50,80円のみ)。発行数は需要、供給を考慮したものであるべきと考えるが、年によって30%も異なることがあってもよいのであろうか。発行枚数も加味して検討されなければならないが、使用でなく収蔵を意図した発行を考えざるえないものである。

次に、量的な面ではなく切手の質的な一面とも言える印刷方式の10年間の推移を整理したの



図5 凹版印刷が最後に見られる
2004年文化人切手3種のうちの2種

が表8である。2003年以降にそれまで主流であったグラビア印刷が徐々に平版印刷になり、民営化後が平版印刷はオフセット印刷に、そしてグラビア印刷も大きく減じ、オフセット印刷に移行していったことが明白である。これをもって質の評価はできぬが、一部を凹版印刷し

図8 気になる切手の発行種類数の推移

年	シリーズ切手	ふみの日切手	シール切手	変形切手	グリーディング切手
2001年	50	13	10	16	0
2002年	50	14	0	25	0
2003年	41	14	20	5	10
2004年	59	14	15	9	25
2005年	43	14	10	5	20
2006年	50	15	16	0	26
2007年	60	15	30	6	40
2008年	115	15	30	7	60
2009年	149	15	25	2	31
2010年	177	15	44	7	45

た切手が2004年文化人切手を最後に発行されていないことが切手の深みがなくなってきたことも加味して考えたい。

最後に、今後の切手発行を考える上で参考となる事項の10年間の推移を表9に整理してみました。これからの10年の切手発行が幾分見えてくるような感じがします。(編集子)



大正12年木造客車に属する郵便緩急車
内部 室内仕分棚
鉄道省



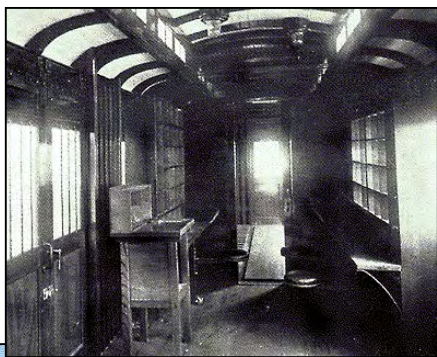
上下 戦前の郵便車の内部 仕分棚



昭和3年半鋼鉄製郵便手荷物車
南海鉄道



郵便創業100年鉄道郵便
児童画



昭和54年護送便専用郵便車
縮切郵袋室、休憩室、車掌室がある 郵政省



昭和23年郵便車 運輸省



白紙部分が出来てしまいましたので遊ばせていただきました、ご容赦を。

出典 鉄道車両100年CD